

---

○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時05分）

---

◇ 鈴木 茂 孝 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、鈴木茂孝君。

（2番 鈴木茂孝君 登壇）

○2番（鈴木茂孝君） それでは、壇上より一般質問させていただきます。

コロナウイルスは、依然として、日常生活に大きな影響を与えていますが、一方で町のワクチン接種も順調に進んでおり、8月29日時点で65歳以上の方は、89%。12歳以上の全体でも、80%の方が2回目のワクチン接種を終えています。これも町長、健康福祉課長をはじめ、町職員の懸命な努力のおかげです。深く感謝申し上げます。

さて、長嶋町政も任期残り数カ月となり、長嶋町政としては、最後の定例会となります。この4年間を振り返り、何ができて、何ができなかったか、検証する必要があります。今回の私の質問は、岩科地区の避難所の整備について、特に避難所として使う岩科小学校のトイレの整備について、町長の公約の三つの柱の一つ目、農林水産観光業の一体推進による経済活性化の政策である道の駅直売所の構想について、また同じ道駅のレストラン天城山房。そして、大沢温泉依田之庄の温泉施設。これについて、利益を上げるためにどのような工夫をしてきたのかについて、最後に、伊豆松崎町の運営についての考えを伺います。それでは、続きは質問席にして質問いたします。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 鈴木議員の質問でございます。

まず、大きな一つ、岩科地区の避難所の整備について。

そのうちの一つ、岩科小学校を避難所として使用した際、多くの住民からトイレについて苦情があった。その後どうなってるのかという質問でございます。お答えします。

災害時における避難所の生活環境については大変重要であると認識をしております。町といたしましては、避難所を含めた公共施設のトイレの洋式化を進めており、岩科小学校体育館のトイレ洋式化は行ったところでございます。

しかし、議員ご指摘の小学校校舎のトイレについては、閉校以降用務員が見回りを行って

いるものの、日常的に使っているものではない事から、大きな費用をかけて改修するのか検討をしているところでございます。なお、トイレにつきましては、断水などの場合も考え、携帯トイレの備蓄を進めております。

岩科地区の二つ目、避難所に指定されている岩科小学校と岩科小学校体育館において雨漏りが見られる。どうなっているのかという事であります。

旧岩科小学校と体育館の雨漏りにつきましては、業者とも協議し、雨漏りが原因について調査してまいりましたが、はっきりとしたことはわかりませんでした。今後、雨漏りの状況を見ながら、いざというときに、対応できるよう、今定例会の一般会計補正予算に、旧岩科小学校の雨漏り修繕費用を計上させていただいたところでございます。また、体育館につきましては、社会体育施設として、一般に貸し出しを行っているため、すでに修繕を行い大きな雨漏りは発生しておりません。小学校同様、明確な原因はわかりませんので、今後も状況を見ながら随時対応してまいります。

岩科地区の三つ目の質問です。3月に災害時の電源確保についての質問をしたと。岩科幼稚園の屋根への太陽光発電設備もしくは、ポータブル蓄電池について質問したけどどのように検討されているのか。お答えします。

近年、全国各地で大規模な災害が発生している中で、燃料に頼らない太陽光を利用した太陽光発電設備は、災害時の電源を確保する上で、有効な手段の一つであると思います。しかしながら、太陽光発電設備は、初期投資や長期に渡る維持管理費等の費用もかかることから、財政面での十分な検討が必要となります。まずは、携行型のソーラーパネルとポータブル電源備蓄を活用し、有事に備えることが現段階でできる最善の策と考え、導入経費につきましては、今回の補正予算に計上させていただいたところでございます。

岩科小学校の四つ目、災害時の避難場所として宿泊施設の利用も考えられるが、宿泊料金の補助は考えていないのかということでございます。

新型コロナウイルス感染症が、完全に収束していない中災害が発生した場合、3密の状態である避難所では、集団感染が発生するリスクは避けられません。このため、感染リスクが小さい在宅避難や安全な知人・親戚の家に避難する縁故避難、地域の公民館などに加え、議員ご指摘の宿泊施設の分散によるなど、様々な避難方法を検討して行く必要があると考えております。宿泊施設を避難所とする事については、旅館組合と協議を伺っておりますが、承諾に至っておらず、今後も粘り強く交渉してまいりたいと思います。なお、宿泊料金の補助につきましては、最近では避難所への集中を防ぐため、警戒レベルを発令した場合に、高齢

者や障害者、妊産婦など、一定の条件を満たす人々を対象に、宿泊料金を補助する自治体もあることから、当町においても検討してまいりたいと考えております。

次に大きな二つ目、振興公社の各施設の運営についてでございます。

そのうちの一つ、道の駅三聖苑の構想はあると言いながら、計画を進めないのはなぜかという質問でございます。

道の駅の整備計画については、道の駅パーク構想基本計画に基づき、進めることを目指してまいりました。しかし残念ながら、直売所については当初予算において、議会での承認を得ることができなくて、暗礁に乗り上げております。町としても速やかに進めてまいるところでございますが、誰も想像できなかったこの新型コロナウイルス感染症の拡大により、町といたしましては、感染防止対策や経済支援対策に重点を置く必要があることから、町の事業において、優先順位をつけて一つ一つ進めてまいりたいと思っております。今回のコロナ渦により、医療の充実を何よりも優先するために、診療所の開設を先に行い、道の駅についてはその後に進めてまいります。当然、ソフト部分である地域の方々との対話等は進めていく所存であります。ぜひご理解をお願いいたします。

振興公社の二つ目、道の駅三聖苑のレストランと天城山号について、かじかの湯の営業停止後、利益を上げるためにどのような工夫をしているのかという質問でございます。お答えします。

鈴木議員からは、振興公社の各施設の運営につきまして、ご質問をいただいておりますが、これらは一般社団法人松崎町振興公社が指定管理者として、直接管理運営を行っているということをご理解をいただきたいと思っております。道の駅花の三聖苑につきましては、行政報告で説明をいたしました通り、かじかの湯の営業終了や新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者が、激減しております。こうした中で、振興公社では天城山房へ来訪されるお客様に対し、感染対策を徹底しながら地場産品を活用したメニューを提供いたしております。また、町といたしましても、かじかの湯の空いた建物を活用し、文化協会のご協力をいただき、季節の写真展を開催し誘客を図っておるところでございます。しかし、コロナ渦においては、なかなか思うようなような誘客宣伝活動もできないことから、コロナ収束後に向け検討を進めているところでございます。

次に振興公社の三つ目でございます。大沢温泉依田之庄温泉施設について、黒字化にするための方策はどうかという質問でございます。お答えします。

令和2年12月27日に開業した大沢温泉依田之庄について、旧依田邸の指定管理者である一

般財団法人松崎町振興公社が管理運営を行っており、9月で8カ月余りが経過いたします。先ほどの行政報告でも、ご説明いたしました通り、依田之庄の令和3年7月末までの入浴者数は6,928人となっており、コロナウイルス感染症の影響により、開業前に想定した入浴者数を下回る状況となっております。依田之庄は地域住民の健康増進や憩いの場であるとともに、観光客との交流の場であり地域の皆様が受付や清掃などに積極的に関わっていただく、まさに地域の拠点施設となっております。また、歴史的な建造物である旧依田邸の魅力を高める施設ともなっております。先ほども申し上げました通り、コロナ渦の中で十分な誘客宣伝活動ができないわけですが、地域内外の人に愛され何度も訪れたいくなるような・・そして、多くの人々に紹介したくなるような施設を目指していくことが重要であると思っております。そのためには、お客様からのご意見やご要望などの声を一つ一つ真摯に受けとめ、迅速に対応することも常に心がけ振興公社と連携しながら黒字化に向けて努力してまいります。

次に大きな三つ目伊豆まつぎき荘の運営について、そのうちの一つ、コロナで休館していた間に行った職員研修は、実際現場でどのように活かされたのかという質問でございます。お答えします。

コロナ渦において、休館していた際に職員同士で『どのような伊豆まつぎき荘にすべきか』などといったテーマで話し合いを実施し、各部門ごとの連携協力が必要ということで、係を超えてお客様の満足度を上げるためにどういったおもてなしが必要か話し合いました。その結果、じゃらんなどの評価では『おもてなし等』4点以上という評価をいただいているところでございます。この評価に満足せず、お客様のニーズを的確を読み取り、提供できるよう日々精進しておるところでございます。

次に、伊豆まつぎき荘の二つ目でございます。コロナ渦において、売上を確保するために今後どのようなことを考えているのか。お答えします。

営業方法や、売り上げ向上に向けては、一般社団法人松崎町振興公社に委託しておるところでございます。しかしながら、今だ先の見えないコロナ渦においては、振興公社だけに責任を押し付けるのではなく、町としても、社会情勢やマーケット情報の収集、対策検討への助言など一致団結して進めておるところであります。観光業界の動向やお客様の動きにアンテナを張り巡らせ、誘客に繋がる計画を美しい伊豆創造センターなどとの連携協力を図りながら、オール松崎で考えておるところでございます。以上でございます。

○2番（鈴木茂孝君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○2番（鈴木茂孝君） それでは質問させていただきます。先ずですね、2年ほど前でしたか、10月に大きな台風がありまして、岩科小学校は避難所として使用されたわけです。その際に先ほど申しましたけれども、多くの住民からトイレが使えないということで苦情がありました。町としてはその内容というか、詳しい内容について把握しているのかお聞きします。

○総務課長（高橋良延君） 実際これ教育委員会の方で管理してるわけですけども、令和元年10月に台風があったときに、避難された方々が使えないと。岩科小学校に合計36基のトイレがありますけれども、使用不可になってるのが13基ということで3分の1は使えないという事で、その中には、もう配管とかが全て破損したりとか、そういったことで水が出ないとか、そういったような原因でございました。

○2番（鈴木茂孝君） 今のちょっと詳しく補足しますと、3階の男子トイレに小便器5つありますけれども、全て使用できない。1階から3階までの洋式大便器の内6基の内4基が使用できないということで、これで、避難所として果たして機能するのかなというふうな思いがありますけれども、当然、町の防災担課もこれは放置できないよということで予算要求をしてるんですけども、しかし、前回6月の補正と今回の補正に一応予算要求をしたんですけども、2回とも査定で残念ながら外れてしまってるということですけども、町長の公約というのは、安心安全な町づくりということですから、またこの秋にですね台風が来たら、また2年前と同じようにトイレが使えないという苦情がくるでしょう。災害時に岩科が孤立するから、岩科に診療所を作りたいとおっしゃってます。町長は、その町長がなぜ岩科の避難所のトイレ整備を先延ばしにしているのか、町長のお考えを伺います。

○総務課長（高橋良延君） 町長後で答えるかわかりませんが、先延ばしにしているということではございませんで、先ほど町長が言いましたように、ここ普段使いがされていないという中で、トイレを全て改修するには大きな費用がかかるというふうなことで、そこでどうするかということを含めて検討しているということです。決して先延ばしてません。それで、やり方にしましても、今言いました36基フルスペック・・全部取り替えるのかどうかというようなことでなくて、必要なところ、例えば1階部分とか2階部分とかを限って改修するとかという方法も考えられますので、そういったことをいろいろ考えながら、この避難所のトイレの改修については検討してまいりたいと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 早急にと言いますが、実際に苦情があったのはもう2年経ってるわけ

ですよ。また更にこれから検討しますということで、例えば浄化槽全て直すと、どれくらいの金額がかかるというのは、見積もりというのはありますか。

○総務課長（高橋良延君） これは見積もりについては取っておりまして、今現在2,000万近くというような中での見積もりをとっております。

○2番（鈴木茂孝君） 先ほど総務課長言われたのは、トイレを全部直すような話をしてましたけれども、小学校ですのでトイレが小さいということで、3つのトイレを2つにして、なるべく広く2人ちょっと体が不自由な方も、使いやすいような形にするっていうふうな形で聞いてますけども、1,700万ぐらいじゃないかって話もちょっと伺ってはいるんですが、何しろそのトイレってのは重要なライフラインの一つですので、これをどんどん先延ばししていくっていうのは、町として、避難所として来て欲しいよっていうふうに言えるのかどうか。

その辺をちょっともう一度再度、お伺いしたいんですが。

○総務課長（高橋良延君） やはり避難所の生活環境はトイレが最も重要な一つであります。その認識は町もございます。従いまして今言いましたように、全てを全部2,000万近くかけて取り替えるのか、やはりそこのところは1階部分とか2階部分部門とか分けてやるのかというそういった施工方法については、具体的に検討をいたしたいと思います。以上です。

○2番（鈴木茂孝君） 例えばですね、浄化槽までやるとお金がかかると、当然そういうことだと思っんですけども、例えば、携帯トイレ先ほどたくさん備蓄してるっておっしゃってましたが、それを使う前提でとりあえず配管は置いて場所だけ確保すると。その便器というかね、それだけやってくっていうこともあるじゃないかなと思っんですけども。その後、財政に余裕が出てくれば、配管の方もやっていくし、一番いいのはそれが日常的に何か他の方が使ってくれるというのが一番いいんですけども、なかなかそこまではちょっと難しいかなというふうに思いますので、携帯トイレを備蓄しているのであれば、そこで携帯トイレを使う場所にするという形のために整備するっていうのも、ありなのかなというふうに思いますけれども。

それで、ちょっと議長関連質問ですけど予算の関係で、ちょっと関連質問したんですがよろしいでしょうか。予算ですね。今回の予算が外れたということで、ちょっとそのことについて関連質問をしたいんですけども。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○2番（鈴木茂孝君） 今回の補正予算ですけども、先ほど町長がおっしゃった通り、コロナで疲弊している町の事業者には事業継続支援金ということで、4,300万円が計上されてます。今

までも支援金というのは支給していたんですが、今までは、国の支援金をいただいて、町の方から支給するという形ではあったと思うんですが、今回、その違う点というのは町の一般財源から、全て一般財源からの支出ということです。確かにですね、コロナで事業者の方は厳しい状態ではあります。しかし、一般財源から支出してまで今しなければならぬ状況なのか。コロナ対策も大切ですけども、町としてやっておかなきゃならないこともあると思います。今回のトイレ整備というのを優先してやっていただく事項ではないかと。そのように思うんですが、予算の配分については、優先順位とバランスを考えて、例えば12月補正とかでもう早急にやっていただきたいんですけども、その辺はいかがお考えでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 今のトイレの関係だと思いますけれども、当然今我々見積もりもらって、どういう方法でやったらいいかということは検討しておりますので、そこは最短12月になるのか、今ここでははっきり明言はできませんけれども、こちらの方についてはいずれにしても避難所のトイレというのは大事だということがありますので、そこは具体的に検討進めてまいります。

○町長（長嶋精一君） 鈴木議員は前は、『観光事業者が大変だ。特に旅館ホテル認識は非常に大変だ疲弊してる』と『何とか町で補助したらどうか』ということを盛んに言いました。盛んに言いました。そしたら今おっしゃることは、そうではなくてトイレの方と。私はトイレを先送りしてるわけではございません。トイレは大事でございますが、やはり今疲弊している観光業者のみならず、事業所非常に大変でございます。その人たちに、やはり継続して事業をやっていただきたい。そのためには、国県も支援するんですけども、町として支援をしたいという考えでございます。事業所が継続しなければ、町は益々活性化しない町になってしまいます。これを、確か鈴木委員は、前に言ったはずでございます。『こっちをやるから、こっちをやらない』ってことじゃなくて、確かに岩科の小学校のトイレについては考えておりますが、いつ・今、いつやるというようなことは今ここで差し控えていきたいと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） お金がね、潤沢にあればそれは両方やった方がいいわけですけども、なかなかそうではない、優先順位をつけなきゃならない中で、例えばですね、ちょっと話が・・・町長が出たのでその話をさせていただきますが、事業継続支援給付金ですね4,300万円。これを10%の減収の方、かなり前のときの減収した方に法人は20万円、個人10万円という話で今予算計上されて審議に入ると思うんですけども、例えば今国の方では、緊急事態宣言で飲食店にも休業保障のお金が出てるとは思いますけども、例えばそういう方に関して

は、今回はちょっと遠慮していただいて、町として何をすべきか。町としては、国の補助制度で溢れたところを町が拾っていくというのは、一番やり方としてはスマートというか、やるべきことだと思っております。その辺が全員に出すよということであれば、例えば事業者でない町民の方もいらっしゃいます。その方多数いらっしゃいます。その方にとっても、次に何か事業をしようとしたときに、『あのときお金を使ってしまったから、なかなかできないんだよ』ってことにならないように、例えば今回みたいに、トイレが・・・避難所のトイレがいつできるかわからないよと。今、私、町長、総務課長は、検討するとおっしゃってましたけど、私たち岩科住民にとっては、かなり先のことになってしまうのかなという形も見えますので、やはりそこは、早めに12月補正でやっていただくような話がいただきたいなというふうに思っておりますが、その辺はなかなか難しいでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） ですから、今ここで12月補正にあげますということは断言できませんけれども、こちらの方については、今しっかり施工方法も考えながら具体的に検討しているということですのでご理解ください。

○2番（鈴木茂孝君） それではなるべく早くやっていただくということで、私もたびたび伺って「どうなってますか」という話をしますので、その辺はよろしく願いいたします。

それから次ですね、避難所として使っている岩科小学校の雨漏りにつきましては、先ほど町長がおっしゃられてましたように、今回の補正予算で対応されています。ただ岩小の体育館ですね、そちらの方は、予算付いていないのかなと思うんですけれども。ただ私達が議員の工事現場施設のときに・・・5月ですか。伺ったときには、かなりの雨漏りがあって『これは大変だ』と思ったんですが、その後状況を聞いてみますと、収まってきているということで良かったなと思うんですが、ただ原因がわからないということで、やはり原因がわかって業者さんが直すよというときには、先ほど町長がおっしゃられたように、速やかに予算を取っていただきたいなというふうに思います。

それから、ポータブル蓄電池の話ですが、3月私が災害のときに避難所で電気がないと大変だと。やはり今携帯電話ですか。やはり使えないと厳しいよということで、お話をさせていただきました。今回の補正予算で10台購入ということをお伺いしております。災害時に役に立ってくれるということを確認しております。それと併せて松崎幼稚園の屋根に太陽光発電を乗せてほしいという話もさせていただきました。先ほど町長の方から財政的に厳しいというお話で、それが3月ときにも総務課長の方に財政的になかなか厳しいんだよってお話をいただいております。そこでですね、今回・・・今年度ですね、過疎地域自立促進特別措置法というの

が期限を迎えて、新しい次の10年ですね、過疎法というのが制定されるということになります。その新たな過疎法の中で『過疎地域における再生可能エネルギーの利用の促進』というような項目が新設されました。過疎代行ですと、だいたいどれぐらい7割ですか。それぐらいが国、県から来るとい形になりますので、かなり財政的には助かってくるというふうに思いますので、そちらの方の検討もぜひさせていただきたいな・・してさせていただきたいなと。といいますのは、松崎幼稚園に乗せますと常時日常的な電源として使えるだけではなくて、非常時、つまり後ろが岩科小学校ですので、非常時に大きな電源供給施設なり得ると思えますけれども、その辺の前向きな検討をお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

○教育委員会事務局長（齋藤 聡君） 先ず体育館の方の雨漏りの関係をちょっとご説明をさせていただきますと思います。町長の答弁にございました通り、実は先日、5月の時に議員視察を行っていただいた後、業者の方に入っていただきまして、雨漏りの関係をもう一度ちょっと精査してくれないかということで対応していただきました。そうしたところ、体育館の屋根の部分ですね、鉄板が・・屋根が重なる部分があるんですけど、その部分とかにビスが出てます。そのビスのところをコーティングしていただいたと。そうしたところ雨漏りが収まってきたというようなことで、業者の方からは話を受けてます。

それとあと、幼稚園の太陽光のソーラーパネルの関係ですが、こちらにつきましては、当初幼稚園建設するときにもこの話は特に出ていなかったというようなことを聞いております。重文の岩科学校とそのバランスを考えた上で設置しないよというようなことでこちらの方は聞いております。ソーラーパネルにつきましては、今現在松崎小学校の屋根に平成22年の時に20キロワットのを設置いたしました。でこれにつきましては、設置するのに大体3,000万かかっております。こっちのときには、国の交付金ございましたので、ほぼ交付金の中で対応しているというふうな状況になります。改めてまた同程度のものを設置するということになりますと、ちょっとかなり金額的に張ってくるものですから、費用対効果を考えた上でまた今後は対応しなければならないのかなというふうに考えております。

○2番（鈴木茂孝君） 先ほど、ちょっと費用対効果って話はありましたけども、先ほど言いましたように、新過疎計画というのがありましてそちらに載せますと、過疎債が使えるということで、そこもちょっと検討していただきたいなというふうに思っております。再度。

それから災害時の宿泊補助ですけれども、先ほど町長のお話で松崎の旅館組合の方が、ちょっと問題があるよという話で、なかなか進まないんだということでしたけども、その具体的な理由というのは何なんでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 私の方で、総務課の方で旅館組合と協議を行いました。相談を持ちかけたというようなところでございます。そのときには、まとめて言いますと、やはり一般のお客様とその避難所のお客様が・・・要は一緒にというようなことをそういったことがちょっと懸念されるというか、一緒にそこで施設の中で一緒にということは、なかなか対応はできないんだらうなというようなことで、意見がありました。

○2番（鈴木茂孝君） 下田市ですね、下田市ではそれをやってまして、好評でこれは最初はコロナの補助金でやっていたんですが、好評ということで自分たちの財源でもやるよというようなことになってますので、先進事例が近くにありますんで、先ほどおっしゃられたような問題がどのようにクリアできたのか、あとは例えばまつぎき荘ですね。まつぎき荘でもできるんじゃないかと思うんですけども、その辺を検討していただきたいというふうに思います。

次ですね。三聖苑の道の駅の話をしたんですが、私を含め多くの議員が、道の駅三聖苑どうなってるんだと。直売所どうなってるんだという話をするんですが、町長は構想はあるというふうにしながらも、なかなか目に見えた打ち出し方が出来てないということなんです。第五次総合計画ですけども、道の駅の整備改修は休止状態で整備に向けて再検討が必要というふうに書かれておりますが、先日の全員協議会では、予定通り来年度に予算を取って設計、工事と進めていくということでした。しかし今日の町長の答弁ですと、先に診療所やってその後をやっていきたいという話ですが、町長その途中でですね、任期となるわけですけども、その辺は次も立候補するような予定があるっていうことで、そのお話をされたんでしょうか。町長に伺います。

○町長（長嶋精一君） 次出るとか出ないとかじゃなくて、自分が・・・私が町長のときに道の駅直売所を上程しまして、鈴木議員も反対をしたわけでありまして。反対された鈴木議員の方から、「あれはどうなった。あれはどうなった。」って言われるのも、非常に私としては複雑な心境でございます。と申しますのは否決されたときに、我が方の担当は泣きました。泣きました。この道の駅直売場については、町長、課長、係長、担当者、情熱を込めて毎日のように膝を突き合わせて、話し合いをしました。そして、各農家の方々にも、一件一件回って、今度うちの直売所ができるから、何とか出してもらいたいというような交渉もしました。とにかく、情熱を込めてやりました。鈴木議員は、ワーキンググループの仲間に入ってございまして・・・、ちょっと話さしてください。話させていただいて、それで設計変更をやった方がいいという鈴木議員の提案を取り入れて、取り入れて・・・、我々はお金をかけて設計

変更もやったんですね。言うともた長くなります。要するに、反対をされたというということで、我々は非常に今後どうしたらいいのか、作るべきだとは思っていますけれども、もっともっと・・・係の人間が泣くようなこともないように、煮詰めて、熟成して、それから、やってまいりたい。その間ですね、コロナ対応があったんです。ちょっとそこら辺を・・・ちょっと黙ってください。

○議長（渡辺文彦君） 町長簡潔にお願いいたします。

○町長（長嶋精一君） コロナがあったんです。しかし、コロナの方はかなり注力をせざるを得ませんでした。議員の方々もその辺をよく理解をしていただきたいと思うわけでありませぬ。以上です。

○2番（鈴木茂孝君） 先ほどですね町の職員が一生懸命やってらっしゃって、これが否決したときには泣きましたということですが、泣かせたのは誰かというというのは、町長じゃないかと私は思います。やはりトップがきちんとした政策を出して、それに農家の方やいろんな方が賛同するものを作らなきゃいけないと。それが結局できなかつたものですから、否決という形になったんじゃないかなというふうに思っております。

ところでですね町長、直売所最近ご覧になってます。最近行ってらっしゃるでしょうか。町長お答えください。

○町長（長嶋精一君） 何の意図でそういう質問してるんすか。行ってますよ。

○2番（鈴木茂孝君） 例えばですね野菜がですね、売る場所がもっと欲しいよ。松崎で作ったものが売れないよということで、農家の方が作った野菜が、山積みになって、売れるところ売場所を探しているというような状況では、今はないわけです。これは、直売所に行かれて町長わかると思います。売店など・・・他の売店などですね、棚が空いていてやむを得ず他の地域の生産物があるということも珍しくない・・・珍しくありません。それでも直売所をつくる。直売所には、どこの野菜が並ぶんでしょう。そのようなことを農家の方はわかっている。ですからこの直売所って案は難しいよという話で、否決に至ったと。その辺の町長・・・やはりその辺のこともやはり理解していただいて、町長は直売所がいいなと思った時期というのは、かなり前ですがそのときには、まだ直売所はこのようにはありませんでした。確かにそのときにやれば、かなり話題になってたくさんお客様みえたというふうに思いますが、今は、松崎町だけでも多くありますし、隣の西伊豆町にもできました。その中でまた予算を使って直売所を作るというのは、非常にナンセンスというか難しい、運営が難しいというふうに思います。そして、当初は管理者もちゃんと給料もらえたところが、財政が厳しい

ということで、管理者も振興公社の役員がやるということで、人件費を削ってようやく黒字の決算を出してこれでどうだということですが、直売所の店長というのは、そんな兼務でできるような生易しいものじゃありませんから。そのことも、直売所にたくさん何回も行っている農家の方わかりますから、この計画は無理だよというような話で、否決ということになったと思います。その辺を町長ももう一度わかっていたきたいなというふうに思っております。町長任期も迫ってるということもありますし、無理に動かず、先送りするというさっきの話で良いのかなというふうに思っております。

それからレストラン天城山房と依田之庄それから、まつぎ荘の話です。まずレストラン天城山房とそれから依田之庄ですけども、振興公社がやってるんだと町長おっしゃいましたが、振興公社の理事長は町長ですから、当然それに対応する責任だったり、指導をしなければいけない立場にあるというふうに思います。レストラン天城山房ですね。かじかの湯が休止になってから、かなり苦戦してます。でもこれはかじかの湯を止めればお客様がみえなくなるっていうのは予測できたことです。町の大事な予算を使ってるわけですから、町長として何か策をしなければいけません。町長は道の駅はずっと赤字なんだと、自分の代で黒字にするんだということおっしゃってましたけども、先ほどの答弁を聞く限り、こういうことで新しい策を打ち出すというものが、見えないんですけども、その辺を再度お願いいたします。

○町長（長嶋精一君） 道の駅の策ですか。大きく捉えますとね、今コロナ渦で非常に大変な時期でございます。町民のために、事業者のために、町長と議会議員が一体となってね、協力し合ってやっていくべき時なんですね。従って、鈴木議員は、一貫として長島町長を批判しておるわけございまして、もうそういう質問が来るなというのはわかっておりましたけれどもね。もっとですね、広く・・・あるいは自分がどういうビジネスをしているのかということもですね、胸に手を当てて一つ考えてですね、一緒にやっっていこうという気持ちになっていただけたらありがたいなと思います。とにかく今コロナの時ですのでなかなか思うに任せません、先ほど言った通りでございます。しかし、努力はしてるわけでございますので、どうか議員の皆さん、長島町長を批判するばかりでなく、もっと広い気持ちになって一緒に松崎町繁栄させでいこうじゃありませんか。以上です。

○議長（渡辺文彦君） 時間どうしますか。

○2番（鈴木茂孝君） 延長でお願いします。

本当にもっともなお話だと思います。私もですね、以前というか、こういうことをしたら

どうだろうという話を二、三したことがあります、なかなかお返事もいただかずそのまま変化もなく進むということがありましたので、後でちょっとそういう提案をさせていただこうかなと思っていますので、とりあえず先に依田之庄のお話をさせていただきたいんですけども、今依田之庄ですね毎月20万円から30万円ぐらいの赤字が出ているという状況のようです。しかもですねこれは建物の改修したお金・・・修繕費というのが入っていないと。これを含めれば、もっと赤字が増えてしまうんじゃないかなというふうに思うんですが、この認識で合ってるでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） はい。今おっしゃる通りで、改修費については償却の方は入ってございません。

○2番（鈴木茂孝君） 民間企業であれば、そんなことはあり得なくてやはり自分の建築費を入れながら減価償却費をしながら修理代金なども備蓄しながら、運営していくというのは普通のことなんです、なかなかそこまでいかないという状況で今あるということですね。お客様の方の数ですけども、オープンしてからお客さんは実は減っておりまして、当然コロナの影響もあると思います。しかし、1月と7月ですね、比べるとだいたい半分です。半減しております。これをやはり、回復・・・健全経営に向けて何か策をしなきゃいけないというふうに思うんですが、ここで私が少し提案させていただきたいというのは、前にも実はお話ししました。賀茂郡と下田の方を松崎町民と同じ町民料金とすると。その中で多くの方がいらっしゃる。賀茂郡下田あたりの方は、まだまだコロナウイルスに罹ってる方があまりいらっしゃらないということで、地元の方をまずは呼んでいただこうと。来ていただこうと。町民料金で入れば、ご飯食べていこうか、何かお茶していこうかというようなこともありますので、ここで経済効果が生まれます。これは本来町のやるべきことだというふうに思います。例えば依田之庄で少し赤字が出ても、その中で町の中にお金が回っていくんだというような理由で、そこはある程度皆さんにも理解が得られるんじゃないかなというふうに思いますので、その辺をもう一度検討していただきたい。それから、天城山房と依田之庄の連携があまりにも無いということで、例えば、天城山房で食事された方は温泉料金が町民料金になりますよ。もしくは、温泉を利用した人にはレストランでドリンクが出ますよとか、そのような連携した値引きをしてお客様を増やしていく。こういう形をやっていくと。とにかく今のままではお客様の意見を聞いてやっていくんだということであれば、何もしてないと一緒と言えば一緒です。やはりそのような仕掛けをしていかないと、なかなか健全経営に向けては、なかなか難しいというふうに思うんですが、その辺の検討はどのように思いますか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 今ご指摘の通り天城山房、依田之庄だけでなくですね大沢地区全体の連携っていうのは、前から望んでいきたいということで話を振興公社の方にもしているところがございます。ただやはり今はコロナの関係がありまして、どうしてもその部分誘客を宣伝を清々とお客さん来てくれという形ができにくいところではございますが、その辺も含めて、その時期を見計らった中で今できることを進めていくという形で考えていければと思います。

鈴木委員おっしゃった通り、地域内の経済循環というのは、伊豆南部においては、すごく重要なことではないかと思っておりますので、そういったことはぜひ連携を取りながらですね、他の地域との繋がりを密にして、経済循環をしていく必要があるかと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） ぜひそのような方向で検討していただければというふうに思いますので、お願いいたします。

伊豆まつぎき荘の運営のことなんですけれども、コロナで休業してた間に、皆さんに『どのようなまつぎき荘であるべきか』というようなお話をされたということです。そして、じゃらんの方でも4点ぐらいの・・・5段階で4ですかね。これぐらいの良い評価をいただくと。確かにですね、じゃらんが評価した国民宿舎ベスト20というところでは、接客についてはですね、まつぎき荘が第3位ということで、非常に良いということで、私も先日、夕食をいただきに参りましたが、非常に気持ちの良い接客でして良かったなというふうに思っております。ただ、ただというか料理ですね。非常においしかったのですが、やはりそういう宿泊とかいう、特別の時というのは、何かサプライズとか、松崎町に来てこれ食べたんだなっていうところの料理をやっぱり意識して出す。意識してそこは強めに出していく必要があるんじゃないかなというふうには感じております。町長も先ほど、この前の議会で『西伊豆の地魚を使った料理を出したいよ』みたいなお話をされてましたので、そういうような流れをしっかりと加速させてやっていくということが必要なんですが、あともう一点ですね、ホームページを見ますとですね、料理の写真は載ってるんですが、今は結構料理を見て『ここ泊りたいな』というような形の方も多いうふうだと思います。詳しいメニューの説明があって、例えば桜葉の何とか包みとかそんなのがあれば、「こういうの普段は食べたことないから、ちょっとここで食べてみたいよ」っていうふうになると思うんですが、写真だけではなかなかそれが何かというふうにはわかりませんのでその辺の説明。それから、松崎の食材を使っているのにお品書きというのをいただくんです。こういうものをね。これに対しても揚げ物、天ぷらというふうには書いてあるんですが、実はこれには松崎町の桑の粉末があっ

て、桑の粉末で食べてくださいというふうなお話がありました。ただその際に残念なのは、「これは松崎で作った桑の葉の粉末ですよ」という言葉がなかったんですが、その辺ももう少し細かく設定をして、松崎町には何をしに、何を期待してどんなことをしたらお客様喜ぶのかという視点に改めてもう一度帰って、そして、研修というか、この前の研修を活かしていただきたい。もう一度お客様を喜ばせるようなまつぎき荘であっていただきたいなというふうに思います。それから今後の経営のことですが『まつぎき荘らしいおもてなし』っていうのは、結構出てくる言葉なんですけども、それはまつぎき荘らしいおもてなしをしますっていうのは、個人で思う感想と抱く感想っていうのは違ってまして、やはりそこはマニュアル化をして、こういうことがまつぎき荘らしいおもてなしなんだよと。これから特に新しい方が入ってきたときに、すぐにそれがあれば対応できるんじゃないかなというふうに思いますし、そういうことを客観的に見てですね、町長はは銀行にいらっしゃったってことで、経験豊富な目でアドバイスをしていただきたいなというふうに思います。町の一般会計から大きな借金をしてることで、私達も何かあればまつぎき荘の方へ『こういうのがいいんじゃないかな』という話はさせていただきたいと思っております。

それから、最後ですけども、松崎の魅力っていうのは、何と言っても海だと思うんですね。その海ですね、ロビーから海が見えない状況に今あります。それはどうしてかと言いますと、海のところ陸開と言われる。水門みたいのがありまして、これを夏の間はまつぎき荘の方が、朝6時夜は9時に開け閉めするということですが、1メートルぐらいしか開けてないという話です。確かに通るには支障はないんですが、松崎に来る方は何を楽しみにしてるかと言いますと、やはり海が見えてロビーから海が見えれば海のところに来たんだなというふうに思うと思うんですね。その辺をまつぎき荘らしいおもてなしって思うんですけども、町長そういうふうに思いませんか。

○町長（長嶋精一君）　そういうふうに思います。

○2番（鈴木茂孝君）　ありがとうございます。ぜひですねそのような形でお客様が松崎に来たらどんなことで楽しむのかな、どんなことを喜ぶのかなという視点を、もう一度やっていただきたいと。それもまつぎき荘の中だけではなくて、プロの方もいらっしゃいます。そういう方も入れてやってみてもじゃないかなと思います。

それでは最後まとめさせていただきます。

避難所として指定している岩科小学校のトイレの改修を早急にしていただきたいということ。

それから松崎幼稚園の屋根の太陽光発電の設置。それから災害時に宿泊施設に避難する場合の宿泊費補助を検討していただきたい。

それからこれはもう決定してるものですが、道の駅パークの構想の速やかな方針の決定。

それから既存の町営施設の利益を上げる方策の実施。まつぎ荘の運営について私はコロナ渦だから難しいじゃなくてコロナ渦だからこそできたよっていうなことをやってく。コロナ渦前提でやはりいろんなプランを組んでいくということが必要ではないかと。そしてお客様目線で接客食事、それから大事なのは情報発信だと思っております。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（渡辺文彦君） 以上で、鈴木茂孝君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前12時02分）

---